

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030B212		運動療法学(Therapeutic Exercise)					リハビリテーション分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	2	福祉健康科学部	後期		氏名 阿南雅也 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115										
授業の概要	運動療法学は理学療法において中心的な治療手技であり、身体に障害や機能低下がある場合、その機能を回復または維持させるために、身体運動を科学的に適用する治療手段である。本講義では、運動学、解剖学、生理学の知識をベースとして、運動療法の概要、関節可動域の改善、筋機能障害の改善、基本動作能力の改善等に用いられる各運動療法の知識・技術について学ぶ。															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)									
目標1	運動療法の概要を説明する。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
目標2	基本的な運動療法に関する理論・目的を説明する。	○														
目標3	基本的な運動療法に関する方法・適応を説明する。	○														
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 運動療法とは・全身調整運動																
2 運動療法の基礎 part 1																
3 運動療法の基礎 part 2																
4 関節可動域制限に対する運動療法 part 1																
5 関節可動域制限に対する運動療法 part 2																
6 筋機能障害に対する運動療法 part 1																
7 筋機能障害に対する運動療法 part 2																
8 持久力低下に対する運動療法																
9 協調性運動障害に対する運動療法																
10 バランス障害に対する運動療法																
11 痛みに対する運動療法																
12 基本動作の獲得・改善 part 1																
13 基本動作の獲得・改善 part 2																
14 発達と運動療法																
15 まとめ																
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○授業開始時に前回の小テストを行う。 ○講義の中でグループディスカッションを適宜行う。 ○実際の臨床での事例などを交える。	工 夫 其 他 の	動画の活用、LMS (Moodle) を積極的に導入し、予習・復習をしやすい環境を整備												
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	教科書と事前にMoodleにアップした講義資料を用いて予習する(30h)。														
	事後学修	教科書とMoodleにアップした講義資料や動画をを用いて復習する(30h)。														
教科書	吉尾雅孝：運動療法学 総論 第4版，医学書院，2017															
参考書	市橋則明・他：運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版，文光堂，2014 植松光俊・他：運動療法学テキスト 改訂第2版（細田多穂 監修），南江堂，2015															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	中間試験	40%	○	○	○											
	学期末試験	40%	○	○	○											
	小テスト	20%	○	○	○											
各定期試験はそれまでの出席回数が2/3以上の者にのみ受験資格を有す。																
注意事項	やむを得ない理由による授業欠席、定期試験受験欠席のときは、必ず連絡のうえ必要な書類を提出し、許可を得る。															
備考	なし															
リンク	Moodle (2019後期-木2 運動療法学) を参照すること URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした 有内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う基本的治療法の一つである運動療法に関する教育を行っている。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・〔新主題〕/(分野)															
H030B251		理学療法評価学Ⅰ(Evaluation of Physical Therapy Ⅰ)				リハビリテーション分野															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	2年	福祉健康科学部	後期		氏名 朝井政治 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 7551															
授業の概要	身体観察、身体計測について、各検査のもつ意義と評価の方法を学習する。さらに、関節可動域検査と筋力検査(徒手筋力検査、筋持久力検査)について検査の意義と目的、実施する上での注意点や禁忌、評価していくプロセスについて学ぶ。さらにそれぞれの評価のつながりについて理解を深める。																				
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	一般的な評価の意義と目的、流れについて説明できる。										○										
目標2	形態計測における意義・目的、方法を理解し、結果の解釈について説明できる。										○										
目標3	関節可動域検査における意義・目的、方法を理解し、結果の解釈について説明できる。										○										
目標4	筋力検査における意義・目的、方法を理解し、結果の解釈について説明できる。										○										
目標5	各種評価のつながりについて説明できる。										○										
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 評価学総論(評価の目的、流れ等)、医療面接、形態計測総論																					
2 形態計測の実際1																					
3 形態計測の実際2																					
4 形態計測の実際3、関節可動域検査総論																					
5 関節可動域検査の実際1(上肢)																					
6 関節可動域検査の実際2(上肢)																					
7 関節可動域検査の実際3(下肢)																					
8 関節可動域検査の実際4(体幹ほか)、筋力検査総論																					
9 総合演習1																					
10 徒手筋力検査の実際1(上肢・肩甲骨)																					
11 徒手筋力検査の実際2(上肢)																					
12 徒手筋力検査の実際3(下肢)																					
13 徒手筋力検査の実際4(体幹ほか)																					
14 総合演習2																					
15 総合演習3																					
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○	学生をグループに分け、実際の評価について解説、デモンストレーションを実施してもらう										工夫 その他の	模擬症例をもとにデモンストレーションや技術の振り返りを実施し、理解度を確認する 初回に解剖学、運動学に関する知識振り返りを行い、必要な知識が習得できているか確認する。							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事後学修	解剖学、運動学の復習をして授業に臨むこと(5時間)。 各評価法の実施方法について予習しておくこと(毎回1時間)。 評価法に関する知識と実施方法について、復習を行い理解しておくこと(毎回1時間)																			
教科書	1) 理学療法評価法 第5版(金原出版) 2) 新・徒手筋力検査法 原著第9版(協同医学出版社)																				
参考書	リハビリテーション・ポケットナビ 今日からなれる!評価の達人(中山書店)																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	課題(講義用資料)	10%	○	○	○	○	○														
	知識振り返り	20%	○	○	○	○	○														
	筆記試験	70%	○	○	○	○	○														
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具を必ず持参すること。																				
備考	なし																				
リンク																					
	URL																				

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	理学療法の評価（特に形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査）に関する講義、演習を模擬症例を提示していく。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030B252		理学療法評価学Ⅱ(Evaluation of Physical Therapy Ⅱ)					リハビリテーション分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
コース必修	2	2年	福祉健康科学部	後期		氏名 浅海靖恵 E-mail asaumi-yasue@oita-u.ac.jp 内線 8001										
授業の概要	神経・生理機能の基本的評価(バイタルサイン・意識の評価、筋緊張検査、反射検査、感覚検査、脳神経検査、認知・高次脳機能検査)について学習する。各検査の意義と目的、方法と手順、留意点、さらにそれぞれの評価のつながりについて理解を深める。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	バイタルサイン・意識の評価の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	筋緊張検査、反射検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。					○										
目標3	感覚検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。					○										
目標4	脳神経検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。					○										
目標5	高次脳機能検査の目的や方法を理解し、結果の解釈について説明できる。					○										
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 神経系に関する知識確認																
2 意識の評価、バイタルサイン																
3 筋緊張検査、反射検査(総論)																
4 反射検査(各論:深部反射)																
5 反射検査(各論:表在・病的反射)																
6 知識振り返り(反射検査)																
7 感覚検査(総論)																
8 感覚検査(各論:表在感覚・深部感覚)																
9 感覚検査(疾患別)																
10 知識振り返り(感覚検査)																
11 脳神経検査(総論、各論:脳神経Ⅰ～Ⅵ)																
12 脳神経検査(各論:脳神経Ⅶ～Ⅻ)																
13 知識振り返り(脳神経検査)																
14 高次脳機能検査(総論・認知症)																
15 高次脳機能検査(失認・失行)																
ラーニング	A:知識の定着・確認					○事前の知識確認や単元ごとの振り返り(小テスト)を用いた診断的/形成的評価を実施する。					エ 夫 其 他 の					
	B:意見の表現・交換					○基本的な疾患を想定し、具体的な評価方法を思考する。										
	C:応用志向					○ペアやグループによる意見交換、問題解決を図る。										
	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備 各検査の意義・目的につながる神経解剖・生理について十分な予習をして臨むこと 事後 理学療法評価学実習において検査が実施できるよう方法・手順について十分な復習をすること															
教科書	1)理学療法評価学 改定第5版(金原出版) 2)ベッドサイドの神経の診かた 改定第17版(南山堂)															
参考書	その都度、紹介する。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	知識の振り返り(小テスト)	30%	○	○	○	○										
	期末テスト	70%	○	○	○	○	○									
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具は必ず持参すること。															
備考	なし。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	神経・生理機能に関する基本的な理学療法評価の目的や方法、結果の解釈について講義する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030B231		運動器系理学療法学(Physical therapy for musculoskeletal disorders)				リハビリテーション分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	3年次	福祉健康科学部	前期		氏名 川上健二 E-mail kenji-kawakami@oita-u.ac.jp 内線 7118						
授業概要 ヒトが様々な身体運動を行うとき、運動器といわれる筋肉・骨・関節とそれらを制御する神経が協調して働いている。よって、各運動器に障害が起きると不良姿勢となり、他の部位に過剰な負担がかかるなどの二次的障害を招く可能性がある。そのため、運動器系の各種疾患・症状とその理学療法を学習する必要がある。本授業では、運動器疾患（骨折・変形性関節症・腰痛・靭帯損傷・外傷等）の病態を理解し、これらに対する評価・検査方法および理学療法プログラム（予防的・保存的・術前後の理学療法）について学習する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	主要な運動器疾患の病態を説明する。					1	2					
目標2	主要な運動器疾患の整形外科的治療方針および実際の治療方法を説明する。					3	4					
目標3	運動器疾患に対する評価および検査方法を説明する。					5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	運動器疾患および運動器系理学療法の概要											
2	骨折および脱臼の理学療法1											
3	骨折および脱臼の理学療法2											
4	関節疾患の理学療法											
5	関節疾患の理学療法											
6	脊椎および脊髄疾患の理学療法1											
7	脊椎および脊髄疾患の理学療法2											
8	疼痛疾患の理学療法（肩関節痛）											
9	疼痛疾患の理学療法（腰痛）											
10	腱断裂および靭帯損傷後の理学療法1											
11	腱断裂および靭帯損傷後の理学療法2											
12	スポーツ傷害の理学療法											
13	関節リウマチ・その他の運動器疾患の理学療法											
14	運動器の機能障害に対する評価法および理学療法（まとめ）1											
15	運動器の機能障害に対する評価法および理学療法（まとめ）2											
ラーニングポイント	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫その他の 各疾患、症状および個人に合った理学療法プログラムを理解させるために、事例を提示して運動器系疾患の整形外科的テストや基本的なアプローチ方法を体験させながら授業を行う。						
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習 教科書および参考書を元に予習をする（30h）。 事後学習 授業の内容を復習する（30h）。											
教科書	吉尾雅幸・他：標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学，医学書院，2013											
参考書	上藤慎太郎：運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略，医学書院，2017 島田洋一・他：運動器疾患の治療とリハビリテーション 手術・保存療法とリハビリプログラム，MEDICAL VIEW，2016											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	70%	○	○	○							
	小テスト	20%	○	○	○							
	レポート	10%	○	○	○							
	すべての項目の合格を単位取得の条件とする。											
注意事項	履修時は、尖鋭を行うこともあるため尖鋭着もしくは動きやすい服装（ジーパン・スカートは禁）を着用すること。 評価器具（ゴニオメーターとメジャー）を持参すること。											
備考	小テストは、講義時間の始めの10分程度を使って実施する。時間の延長は行わないため、事前連絡なく遅刻した場合は受けられないこともあるので気を付けること。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の業務 経験	理学療法士。大学病院などでの実務経験を有する。
実務経験を いかした教 育内容	これまで経験した実際の症例を通して解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)					
H0308233		神経系理学療法学(Physical therapy for neurological disorders)				リハビリテーション分野					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員					
必修	2	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 萬井太規 E-mail nani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 6109					
授業の概要 神経に起因する代表的な疾患とその障害像を理解し、それに対する理学療法アプローチの理論について学習する。											
具体的な到達目標											
目標1 脳・脊髄の解剖・生理について説明できる。						1	2				
目標2 末梢神経・脊髄の解剖・生理について説明できる。						3	4				
目標3 失調症の理学療法評価・治療について説明できる。						5	6				
目標4 パーキンソン病の理学療法評価・治療について説明できる。						7	8				
目標5 認知症・頭部外傷・末梢神経損傷の病態・症状について説明できる。						9	10				
目標6 脊髄損傷の理学療法評価・治療について説明できる。											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											
授業の内容											
1 神経・筋疾患総論、脳・脊髄系による運動制御											
2 小脳の構造と機能											
3 失調症(評価)											
4 失調症(治療)											
5 パーキンソン病(病態・症状・分類)											
6 パーキンソン病(薬物療法・評価)											
7 パーキンソン病(治療)											
8 頭部外傷											
9 認知症											
10 末梢神経の解剖・生理											
11 末梢神経損傷											
12 脊髄の解剖・生理											
13 脊髄損傷(症状)											
14 脊髄損傷(合併症)											
15 脊髄損傷(評価・治療)											
ラーニング	A:知識の定着・確認	☐	スライドや適宜症例のビデオ等を用いてイメージを持たせ、疾患の病態・評価・理学療法の実践について知識の定着と臨床的対応能力を高める	工夫	動画の活用、單元ごとに知識振り返りを実施する。						
ラーニング	B:意見の表現・交換	☐		その							
ラーニング	C:応用志向	☐		他							
ラーニング	D:知識の活用・創造	☐									
時間外学習	準備 解剖学、生理学についての復習(5h)。配布資料や参考文献などの情報を必要に応じて予習(各講義前1h)。										
事後学習	各講義後に授業資料や教科書を用いて復習する(各講義後1h)										
教科書	細田多穂・他、シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 改訂第3版、南江堂、2018年 尾上尚志・他、病気がみえる7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA、2017年 小林哲夫・他、神経障害領域のリハビリテーション実践アプローチ 改訂第2版、MEDICAL VIEW、2019年										
参考書	山崎義昭・他、ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版、南山堂、2016年 中山恭秀・鈴木俊明、Crosslink理学療法学テキスト 神経障害理学療法学II、MEDICAL VIEW、2019年 吉尾雅幸・森岡周、標準理学療法学 神経系理学療法学、医学書院、2013年										
成績評価の方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト	20%	○	○	○	○	○	○				
期末テスト	80%	○	○	○	○	○	○				
その他の評価方法											
評価割合											
注意事項	特になし										
備考	特になし										
リンク	URL										

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	実際の症例の病態や経過を提示、解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0308235		脳血管障害理学療法学(Physical Therapy of Cerebrovascular Disorder)				リハビリテーション分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 菅田陽伶 E-mail haugata@oita-u.ac.jp 内線 7671						
授業の概要 脳血管障害の理学療法に必要となる脳の構造と機能および脳血管障害後に生じる病態や症状について理解を深める。脳血管障害の病型とそれぞれの特徴・各時期における治療やリハビリテーションの進め方、リスク管理について理解する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1 脳血管障害理学療法に必要となる脳の機能および構造について説明することができる。						1	2					
目標2 脳損傷により生じる障害について説明することができる。						3	4					
目標3 脳血管障害後片麻痺患者の回復過程について説明することができる。						5	6					
目標4 脳血管障害における評価項目を選定することができる。						7	8					
目標5 脳血管障害における理学療法について説明することができる。						9	10					
目標6 脳血管障害における合併症について説明することができる。												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 脳血管障害理学療法総論												
2 脳の機能と構造(1) - 運動												
3 脳の機能と構造(2) - 感覚、脳血管の走行と灌流領域												
4 脳血管障害												
5 その他の脳損傷疾患 - 頭部外傷、脳腫瘍、低酸素脳症												
6 中枢性運動障害の病態												
7 中枢性運動障害に対する評価(1) - 機能障害 (impairment)												
8 中枢性運動障害に対する評価(2) - 機能障害 (activity / participation)												
9 脳卒中後片麻痺に対する理学療法(1) - 一般的トレーニングと課題特異的トレーニング												
10 脳卒中後片麻痺に対する理学療法(2) - 装具療法、機能的電気刺激、電気刺激療法、ロボット治療												
11 脳卒中後片麻痺に対する理学療法(3) - 合併症												
12 脳卒中後片麻痺に対する急性期の介入												
13 脳卒中後片麻痺に対する回復期の介入												
14 脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践(1) - 急性期												
15 脳卒中後片麻痺に対する理学療法の実践(1) - 回復期												
ラ フ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造						工 夫 其 他 の					
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 神経解剖・生理について十分な予習をして臨むこと (1h×15回=15h)。 事後 脳血管障害理学療法実習につながるよう知識の定着・確認に努めること (1h×15回=15h)。											
教科書	神経障害理学療法学I 第2版(中山書店)、大畑光司・石川明編纂、2020年発行											
参考書	1) 脳卒中理学療法の理論と技術 第3版(メジカルビュー社)、原寛典・吉尾雅春編集、2019年発行 2) ベッドサイド神経のみかた 第18版(南山堂)、田崎義昭・斎藤雄雄、2016年発行 3) 脳卒中最新療法 第4版(医歯薬出版)、橋井國彦・藤田勉・宮坂元廣編集、2009年発行											
成績評価の方法 及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
期末試験		100%	○	○	○	○	○	○				
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	脳血管障害の理学療法全般について講義する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0308237		内部障害理学療法学(Physical Therapy for Internal dysfunction)				リハビリテーション分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	3年	福祉健康科学部 理学療法コース	前期		氏名 朝井政治 田中健一朗 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp , tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 7551, 6232						
授業の概要 循環器、呼吸、代謝分野における理学療法の対象となる疾患と障害を学習し、一般的な治療および内部障害系理学療法について学習する。さらに救急領域における内部障害者についての理解を深めるために疾患特異性と理学療法の現状について概説する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1 循環器、呼吸、代謝を中心とした内科系疾患の病態、症状、治療法を説明できる。							○					
目標2 理学療法を実施する上でのリスクの抽出と説明ができる。							○					
目標3 内部障害を有する患者に対する理学療法に必要な評価、問題点抽出ができる。							○					
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 総論(定義、疫学など)												
2 症候学と評価(発熱、咳、浮腫、体重減少、肥満、痛み、呼吸困難)												
3 理学療法を実施する上でのリスク管理												
4 循環器総論												
5 循環器系の機能と構造												
6 心電図の読みかた												
7 運動耐容能とその評価												
8 エネルギー代謝と栄養												
9 身体構造と機能:呼吸器系												
10 呼吸器疾患に対する評価												
11 呼吸器疾患に対する理学療法												
12 症例検討(呼吸器疾患)												
13 身体構造と機能:泌尿器系・消化器系												
14 糖尿病・腎機能障害に対する評価・理学療法												
15 症例検討(代謝系疾患)												
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○ ○ ○	講義に加え、ビデオ視聴、ディベート、学生による講義を取り入れる。				工 夫 其 他 の	講義例を通して、病態、評価、治療の理解を深める。 講義内容の振り返り(小テスト)を実施する。				
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習 事後 学習	これまでの学習内容の復習(5時間) 各講義に復習を行う(各講義後に1時間)										
教科書	医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.2 循環器(第5版) MEDIC MEDIA、2021 医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.4 呼吸器(第3版) MEDIC MEDIA、2018 医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.8 腎・泌尿器(第3版) MEDIC MEDIA、2019											
参考書	マレイン N マリープ 著、人体の構造と機能(第4版)(医学書院)、2015 日本呼吸ケアリハビリテーション学会等 編集、呼吸リハビリテーションマニュアル 運動療法(第2版)(照林社)、2012 千住秀明ら 監修、呼吸理学療法標準手技(医学書院)、2008											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート	20%	○	○	○							
	知識振り返り(小テスト)	10%	○	○								
	筆記試験	70%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	内部障害理学療法（呼吸、循環、代謝）について、具体例を提示しながら、講義やディスカッションを進める。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)									
H030B239		発達系理学療法学()					リハビリテーション分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
理学療法コース必修	2	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 武田 真樹										
						E-mail 内線										
授業の概要 小児期より障害を持つ患者への理学療法について学ぶ。対象患者の特性より、発達という現象を多面的に理解する必要がある。よって、発達を一側面で捉えるのではなく、運動・認知・社会性などの多領域に関連づけて学ぶ。また、その基礎として神経学や発達科学の知見を活用する。 対象疾患は多岐にわたるため、臨床でよく対峙する疾患にしばって学ぶ。対象疾患の臨床像を理解することで、臨床に必要な評価(方法)や基本的な介入方法を学ぶ。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 乳児の運動について発達の視点で説明できる(誕生から歩行獲得まで)。						○										
目標2 定型および異常運動発達と姿勢反射の関連性について説明できる。						○										
目標3 幼児の発達を運動・認知・社会性などの多領域に関連づけて説明できる。また発達検査の概要を説明できる。						○										
目標4 対象疾患の病態や評価および介入方法を説明できる。						○										
目標5 定型発達乳児の運動発達過程と対象疾患(脳性麻痺)の運動特徴を口頭試問にて実演できる。						○										
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 オリエンテーションおよび発達系理学療法学概論																
2 乳児期の運動発達分析①: 0~3ヵ月																
3 乳児期の運動発達分析②: 4~6ヵ月																
4 乳児期の運動発達分析③: 7~9ヵ月																
5 乳児期の運動発達分析④: 10~12ヵ月																
6 定型および異常運動発達と姿勢反射の関連性																
7 幼児期の発達と検査																
8 対象疾患①: 脳性麻痺および重症心身障害総論																
9 対象疾患②: 脳性麻痺各論(痙直型四肢麻痺・両麻痺)																
10 対象疾患③: 脳性麻痺各論(弛緩型片麻痺・アトニー型四肢麻痺)																
11 対象疾患④: 重症心身障害各論																
12 対象疾患⑤: 発達障害・知的障害																
13 対象疾患⑥: 筋疾患																
14 対象疾患⑦: 小児整形外科疾患																
15 口頭試問でのプレゼンテーション: 定型運動発達過程と脳性麻痺の運動特徴																
ラ	A: 知識の定着・確認	○ 予習および復習範囲の提示、ペアおよびグループでの実技演習とディス	エ	ス	後日(当日)提出できる質問用紙を配布、回答は口頭および資料提示で実施											
ク	B: 意見の表現・交換	○ カッションの促進、グループ学習によるレポート作成、口頭試問でのプ														
ニ	C: 応用志向	レゼンテーション実施														
テ	D: 知識の活用・創造															
グ																
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習	各授業前に教科書の該当範囲を予習する(15h)。														
	事後 学習	各授業後に配布されたプリントおよび教科書の該当範囲を復習する(15h)。レポート作成およびプレゼンテーション準備(5h)														
教科書	細田多穂(監修)、小児理学療法学テキスト改訂第3版、南江堂、2018年、ISBN978-4-524-25533-7 授業中に配布するプリントを使用する。															
参考書	高橋智宏(監訳)、誕生から1歳まで 機能的姿勢・運動スキルの発達、協同医学出版社、1997年、ISBN4-7639-2067-7 浅野大喜(著)、リハビリテーションのための発達科学入門、協同医学出版社、2012年、ISBN978-4-7639-1068-0 大城昌平他(編著)、子どもの感覚運動機能の発達と支援、メジカルビュー社、2018年、ISBN978-4-7683-1900-3															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	定期試験	70%	○	○	○	○										
	レポートおよびプレゼンテーション	30%	○	○		○	○									
定期試験とレポート・プレゼンテーションの点数を合算し成績および単位取得の判定を行います。																
注意事項	限られた回数・時間での授業です。能動的に学ぶことを心がけて参加して下さい。実技演習は動きやすい服装で参加して下さい(事前に連絡します)。															
備考																
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経歴	理学療法士

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0308240		老年期理学療法学(Physical Therapy for Gerontology)				リハビリテーション分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	3年	福祉健康科学部 理学療法コース	前期		氏名 朝井政治、田中健一朗 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp、tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 7551、6232						
授業の概要 老年期における疾病や障害の成因、病態、予後に関する知識から、機能障害の回復促進及び健康維持と障害予防等に対応する理学療法（評価・運動療法・ADL指導・福祉用具の適用・生活環境調整・余暇活動）を総合的に学習する。また、介護保険制度などの高齢者施策におけるリハビリテーション関連領域を整理し、健康増進、介護予防の意義と理学療法の役割について理解する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	高齢者の身体的特徴を説明できる。					1	2					
目標2	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、肺炎について説明できる。					3	4					
目標3	高齢者の身体機能の評価と機能に合わせた指導や介助法が説明できる。					5	6					
目標4	医学的根拠に基づき、高齢者に対する予防理学療法プログラムの、生活指導、リスク管理が説明できる。					7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 総論：老年期の定義・疫学、医療制度・介護保険制度の概要												
2 加齢に伴う身体・精神機能の変化(1)												
3 加齢に伴う身体・精神機能の変化(2)												
4 フレイル・サルコペニア・ロコモティブシンドローム												
5 高齢者の身体機能評価												
6 高齢者の精神機能評価												
7 高齢者の日常生活動作の評価												
8 高齢者に対する理学療法：急性期・回復期												
9 高齢者に対する理学療法：維持期・生活期・終末期												
10 福祉用具・環境調整												
11 ADLの運動学的分析												
12 各種疾患におけるADL												
13 各種ADLの介助・支援の方法①												
14 各種ADLの介助・支援の方法②												
15 ADL 総合振り返り												
ラ	A:知識の定着・確認	☐	各種評価や介助方法について、演習・実習を取り入れる。				エ 夫 そ の 他 の	具体的な理学療法やADL指導について実際の症例ビデオを視聴し、ディスカッションを行う。				
ク	B:意見の表現・交換	☐										
ニ	C:応用志向	☐										
テ	D:知識の活用・創造	☐										
グ												
時間外学習の内容と時間の目安	準備 解剖学、生理学、運動学の復習を行って講義に参加すること(5時間)											
	事後 各講義後に復習すること(各回1時間×15回)											
教科書	島田裕之 編著、高齢者理学療法学 (医歯薬出版)、2017 鶴見隆正ら 編集、標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院)、2017											
参考書	橋元 隆 編集、理学療法学テキストV 日常生活活動(ADL)第2版(神院文庫)、2015 福井園彦 原著、老人のリハビリテーション 第8版(医学書院)、2016											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	筆記試験	70%	○	○	○	○						
	課題レポート	10%	○	○	○	○						
	実技演習	20%	○	○	○	○						
注意事項	講義の中で一部実習を行う											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	高齢者の身体機能の変化、疾病、介助の方法等について、具体例を提示しながら、講義やディスカッションを進め、理解を深める。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H030B241		神経難病理学療法学(Physical therapy for neuromuscular disease)				リハビリテーション分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・選	担当教員										
必修	2	3年	福祉健康科学部 理学療法コース	前期		氏名 朝井政治 E-mail ma-asa@oita-u.ac.jp 内線 7551										
多くの難治性疾患のうち、理学療法の対象となる筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多発性硬化症などの神経難病について、障害像、評価、理学療法アプローチ、社会資源の利用について学習する。 また、神経難病は治療が困難で、進行性であることをふまえ、症状安定期、症状増悪期、終末期などの病期ごとに解説する。さらに、在宅生活期や終末期に問題となる呼吸障害、摂食嚥下障害、さらに在宅での人工呼吸管理を含む呼吸ケアやポジショニング等についても解説を行う。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	難治性疾患の定義が説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	基本的なヒト免疫機能を説明できる。															
目標3	理学療法の対象となる代表的な神経難病の病態と治療について説明できる。															
目標4	神経難病の各病期における評価、理学療法が説明できる。															
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1	総論(難治性疾患の定義・疫学)、活用できる社会資源とサービス															
2	神経難病にみられる症状・合併症															
3	脊髄小脳変性症の病態と治療															
4	脊髄小脳変性症に対する評価・理学療法															
5	症例検討															
6	免疫学総論、多発性硬化症の病態と治療(理学療法を含む)															
7	多発性筋炎・皮膚筋炎の病態と治療(理学療法を含む)															
8	その他の神経難病の病態と治療(理学療法を含む) 1															
9	その他の神経難病の病態と治療(理学療法を含む) 2															
10	その他の神経難病の病態と治療(理学療法を含む) 3															
11	症例検討															
12	筋萎縮性側索硬化症の病態と治療															
13	筋萎縮性側索硬化症に対する評価・理学療法①															
14	筋萎縮性側索硬化症に対する評価・理学療法②															
15	症例検討															
ラーニング	A:知識の定着・確認	☐	事例検討・グループディスカッションを通じて、疾患の病態、評価、理	工 夫 そ の 他 の	症例検討後に課題(レポートまたは知識振り返り)を実施する。適宜、小テストにて知識の振り返りを行う。											
	B:意見の表明・交換	☐	学療法の実践について理解を深める。													
	C:応用志向	☐														
	D:知識の活用・創造	☐														
時間外学習の内容と時間の目安	準備	これまでの学習内容の復習(特に免疫学) (5時間)														
	事後	各講義後に復習すること(各講義後1時間)														
教科書	小森哲夫 監修、神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ(改訂第2版)(MEDICAL VIEW社)、2019															
参考書	医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症(第2版)(MEDIC MEDIA)、2018 医療情報科学研究所 編、病気がみえる vol.7 脳・神経(第2版)(MEDIC MEDIA)、2017 齊本恵輔 監著、神経難病リハビリテーション100の教習(株式会社gene)、2018															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	課題レポート	30%	○	○	○	○										
	小テスト	10%	○	○	○	○										
	筆記試験	60%	○	○	○	○										
注意事項	特になし															
備考	特になし															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	実際の症例や模擬症例の病態や経過を提示、解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030B242		慢性疼痛と理学療法学(Chronic Pain and Physical Therapy)				リハビリテーション分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 片岡 鼎志 E-mail mkataoka@olta-u.ac.jp 内線 7457						
授業の概要 痛みのメカニズムを考えると、いまだにわからないことが多い。痛みのメカニズムを理解していないと、これを患者に説明することはむずかしい。日常遭遇する疼痛疾患の痛みのメカニズムを理解することは、きわめて重要である。総論では痛みの一般的性質、痛みの発生と鎮痛のメカニズム、そして痛みの診断と評価法を学ぶ。各論では、体性深部痛、内臓痛、神経系の異常による痛み、がん性疼痛、薬剤の作用メカニズム、下降抑制系疼痛を学ぶことにより理学療法士としての不可欠な知識を習得する。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	さまざまな疼痛の発生メカニズムを説明できる											
目標2	NSAIDs・局所麻酔薬・オピオイドの作用機序が説明できる											
目標3	疼痛閾値、疼痛の記憶について説明できる											
目標4	疼痛と自律神経との関係を説明できる											
目標5	薬物療法以外による疼痛緩和のメカニズムを説明できる											
目標6	下降抑制系疼痛を説明できる											
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 痛みの一般的性質(定義、分類)												
2 痛みの診断・評価法												
3 疼痛刺激伝達												
4 NSAIDs、オピオイド												
5 カルシウムチャネル: $\alpha 2 \delta$ リガンド												
6 下降抑制系疼痛												
7 体性深部痛・臓痛・内臓痛・がん性疼痛												
8 実臨床での問題点												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
ラ ク エ ー シ ョ ン グ ル ー プ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 1) 疼痛の定義、薬剤の作用メカニズムの理解を最重要目標とします。 ☐ 2) 症例検討 ☐ 2) グループ発表と討論およびレポート提出を予定	工夫	その他の	スライドを用いてメカニズムについて詳細に説明する。							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	事前に配布した症例を検討しておく 事後学修に重点をおきます(30分)										
教科書	プリントを配布します。											
参考書	痛みの臨床テキスト 小川節郎 著 南江堂 2016年 痛みの考え方-しくみ・何を・どう効かすか- 丸山一男 著 南江堂 2017年 慢性痛のサイエンス 平嶋道子 著 医学書院 2018年											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
試験		100%	○	○	○	○	○	○				
注意事項	レポートは必ず提出すること レポートの提出がない場合は、試験での評価は行いません											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	整形外科専門医、リハビリテーション医学専門医として臨床に従事
実務経験を いかした教 育内容	実臨床にそくした問題点を挙げる

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0308271		物理療法学(Electrophysical Agents)				リハビリテーション分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	1	3	福祉健康科学部	前期		氏名 河上敬介, 阿南雅也, 萬井太規 E-mail 河上: kkawakami@oita-u.ac.jp 内線 河上: 7735						
授業の概要 物理療法では、より高い効果を求めて強い強度で行われたり、様々な種類のエネルギーを利用したりすることになるが、同時に身体に対する危険性も高くなる。安全で効果の高い治療を実施するためには、与えられたエネルギーに対して身体がどのような反応を示すかを基礎知識として学習する必要がある。また、物理療法には極超短波療法、超短波療法、超音波療法などがあるが、使用される物理的エネルギーの多くは目に見えないものであり、理解することが困難な場合が多い。本授業では、これらを可能な限り単純化して各自がイメージとして理解できるように心がけながら行う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	各種物理療法の作用機序を説明できる					○						
目標2	各種物理療法の適応と禁忌を説明できる					○						
目標3	各種物理療法の実施上の注意点を説明できる					○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 物理療法の概要												
2 温熱療法(総論, ホットパック, バスタフィン浴)												
3 温熱療法(赤外線療法)												
4 温熱療法(超短波療法, 極超短波療法)												
5 超音波療法												
6 電気刺激療法(総論)												
7 電気刺激療法(神経筋電気刺激)												
8 電気刺激療法(経皮的電気刺激)												
9 電気刺激療法(バイオフィードバック療法)												
10 光療法(レーザー, 紫外線)												
11 牽引療法(概要, 頤椎牽引, 骨盤牽引)												
12 局所的空気圧迫装置, 持続的他動運動装置												
13 寒冷療法												
14 水治療法												
15 リスク管理												
ラ ア ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認 ☐ グループ発表を行う。 B:意見の表現・交換 ☐ 授業開始時に单元ごとの小テストを行う。 C:応用志向 D:知識の活用・創造					工 夫 の 他 の						
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 高校時代に学んだ物理学を復習する(30h). 事後 学修 講義内容を復習する(30h).											
教科書	古田英樹・他: Crosslink理学療法学テキスト 物理療法学, メジカルビュー社, 2020											
参考書	木村貞治・他: 物理療法学テキスト 改訂第2版, 南江堂, 2013 網本和・他: 物理療法 第4版, 医学書院, 2014											
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学期末試験	90%	○	○	○							
	小テスト	10%	○	○	○							
注意事項	物理療法は物理学の現象を生体に与える治療法である。 高校時代に学んだ物理学を復習しておいていただきたい。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2021前期-火) 物理療法学 を参照すること URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う基本的治療法の一つである物理療法に関する教育を行っている。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																
H030B401		理学療法学研究論(Physical Therapy Research)					基礎研究科目																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																	
必修	2	3	福祉健康科学部	通年		氏名 河上徹介, 朝井政治, 片岡嘉志, 兒玉雅明, 徳丸治, 紀瑞成, 阿南雅也, 菅田陽佑, 萬井本規, 安藤敦子, 川上健二, 田中健一朗 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115																	
授業の概要												研究モラルと倫理教育とともに、基礎研究概説、臨床研究概説を学修する。また、各教員の研究室への配属により、基礎・臨床研究倫理や研究方法論、研究計画法を学ぶことで、疑問点の解消や問題点の解決のための論理的な思考過程を構築する。これにより、その後に実施される臨床実習において、論理的思考により、患者の評価や治療の決定を科学的な視点から検証することが可能となる。											
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)											
目標1 基礎・臨床研究倫理を説明できる												1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標2 研究方法論や研究計画法を説明できる															○								
目標3 研究テーマの背景-目的を説明できる															○								
目標4 研究テーマにおける方法を説明できる															○								
目標5																							
目標6																							
目標7																							
目標8																							
目標9																							
目標10																							
授業の内容																							
1 研究モラルと倫理教育・研究内容紹介(教員1)																							
2 基礎研究概説・研究内容紹介(教員2)																							
3 臨床研究概説・研究内容紹介(教員3)																							
4 研究内容紹介(教員4・5)																							
5 研究内容紹介(教員6・7)																							
6 研究内容紹介(教員8・9)																							
7 研究内容紹介(教員10・11・12)																							
8 基礎・臨床研究倫理 各論1(全教員)																							
9 基礎・臨床研究倫理 各論2(全教員)																							
10 基礎・臨床研究方法論 研究計画法1(背景-目的)(全教員)																							
11 基礎・臨床研究方法論 研究計画法2(背景-目的)(全教員)																							
12 基礎・臨床研究方法論 研究計画法3(方法)(全教員)																							
13 基礎・臨床研究方法論 研究計画法4(方法)(全教員)																							
14 基礎・臨床研究方法論 研究計画法5(背景-目的-方法)(全教員)																							
15 基礎・臨床研究方法論 研究計画法6(背景-目的-方法)(全教員)																							
ラ		A:知識の定着・確認		各教員の研究室へ配属(2~3名)する。										工		中間報告会にて進捗状況を報告する。							
ク		B:意見の表現・交換												失									
ニ		C:応用志向		○										の									
ン		D:知識の活用・創造		○										他									
グ																							
時間外学修		準備 各指導教員に指示に従う(30h)。																					
の内容と時間		事後 各指導教員に指示に従う(30h)。																					
の目安																							
教科書		各指導教員に指示に従う																					
参考書		各指導教員に指示に従う																					
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10											
	研究活動への参加状況	60%	○	○	○	○																	
	必要な文献・資料を使って研究背景を説明	20%	○	○	○	○																	
	研究計画の立案	20%	○	○	○	○																	
注意事項	なし																						
備考	なし																						
リンク																							
	URL																						

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士、医師、看護師
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士、医師、看護師としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かし、基礎・臨床研究方法論を教育する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0308402		理学療法学研究演習(Advanced practice on Physical Therapy Research)				基礎研究科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	2	4	福祉健康科学部	通年		氏名 河上敬介, 朝井政治, 片岡昌志, 児玉雅明, 徳丸治, 紀瑞成, 阿南雅也, 青田陽佑, 高井太規, 安藤敬子, 川上健二, 田中健一朗 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115						
授業の概要 臨床で発見した新たな高いレベルの疑問点や問題点を解決するための術を、教員の指導のもと試行錯誤しながら学修する。この様に、臨床実習という実践を単に、評価や治療技術の取得に留めず、論理的思考の構築と疑問点の解明や問題点の解決に活用する能力を身につける。また指導教員の直接指導によって、基礎・臨床研究実践論を学びながら、予備実験、本実験、データ解析、討論、最終発表準備を経て、抄録集を作成し、卒業研究発表会を行う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	基礎・臨床研究実践論を説明する。											
目標2	予備実験、本実験、データ解析を実践する。											
目標3	最終発表準備を経て、抄録集を作成し、研究内容を発表する。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンス											
2	基礎・臨床研究実践論 予備実験1											
3	基礎・臨床研究実践論 予備実験2											
4	基礎・臨床研究実践論 予備実験3											
5	基礎・臨床研究実践論 本実験1											
6	基礎・臨床研究実践論 本実験2											
7	基礎・臨床研究実践論 本実験3											
8	基礎・臨床研究実践論 データ解析1											
9	基礎・臨床研究実践論 データ解析2											
10	基礎・臨床研究実践論 データ解析3											
11	基礎・臨床研究実践論 討論1											
12	基礎・臨床研究実践論 討論2											
13	基礎・臨床研究実践論 最終発表準備1											
14	基礎・臨床研究実践論 最終発表準備2											
15	最終発表											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	各教員の研究室へ配属(2~3名)する。				エ 大	その他の 最終発表会にて報告する。					
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	各指導教員に指示に従う(120h)。										
	事後 学修	各指導教員に指示に従う(120h)。										
教科書	各指導教員に指示に従う。											
参考書	各指導教員に指示に従う。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	研究活動への参加状況	30%	○	○	○							
	予備実験、本実験、データ解析の実践	30%	○	○	○							
	最終研究発表	40%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士，医師，看護師
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士，医師，看護師としての実務経験をもつ教員が，臨床・研究・教育経験を生かし，基礎・臨床研究実践を教育する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H0308282		義肢装具学実習(Practice of Prosthetics and orthotics)					実習系										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	1	3年	福祉健康科学部	前期		氏名 阿南雅也, (非) 狩野綾子											
						E-mail 阿南:anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 阿南:6115											
授業の概要 義肢装具学で学習したことを基に、義肢装具の構造と使用されるパーツについて学習する。また装具については学生自身が相互にモデルとなり、疾病と装具の特殊性を学習する。義肢については、体験用義足を用い、装着時の問題点やアライメント調整の技術を理解し、義肢の適合判定の知識について学習する。																	
具体的な到達目標																	
						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	義肢装具の構造について説明できる						○										
目標2	基本的な装具のチェックアウトができる						○										
目標3	基本的な義肢のアライメント調整が説明できる						○										
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 義肢・装具のエビデンス調査 (阿南)																	
2 義肢・装具のエビデンス調査 (阿南)																	
3 義肢・装具のエビデンス発表 (阿南)																	
4 義肢・装具のエビデンス発表 (阿南)																	
5 義肢・装具の使用法 (チェックアウト、アライメント調整を含む) 調査 (阿南)																	
6 義肢・装具の使用法 (チェックアウト、アライメント調整を含む) 調査 (阿南)																	
7 義肢・装具の使用法の発表 (阿南)																	
8 義肢・装具の使用法の発表 (阿南)																	
9 義肢の体験実習 (阿南)																	
10 義肢の体験実習 (阿南)																	
11 義肢装具に関する法律や制度概論・材料学・トピックス (狩野)																	
12 義肢装具士からみた装具のチェックポイント (狩野)																	
13 ギプス採型・義足等の体験実習・義足の調整 (狩野)																	
14 ギプス採型・義足等の体験実習・義足の調整 (狩野)																	
15 ギプス採型・義足等の体験実習・義足の調整 (狩野)																	
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ 講義の中でグループディスカッションを適宜行う。 B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 ☐ D:知識の活用・創造 ☐					工夫 その他の	動画の活用、LMS (Moodle) を積極的に導入し、予習・復習をしやすい環境を整備										
時間外学習の内容と時間の目安	準備 義肢装具学の復習を行う (30h). 事後 発表の準備を行う (30h).																
教科書	佐伯寛:標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 義肢装具学. 医学書院, 2018																
参考書	澤村誠志・他:義肢学 第3版. 医歯薬出版, 2015 飛松好子・他:装具学 第4版. 医歯薬出版, 2016 伊藤利之・他:義肢装具のチェックポイント 第8版. 医学書院, 2014																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
グループ活動への参加状況 口頭による実習結果発表 発表会への参加状況 レポート	グループ活動への参加状況	30%	○	○	○												
	口頭による実習結果発表	25%	○	○	○												
	発表会への参加状況	20%	○	○	○												
	レポート	25%	○	○	○												
注意事項	グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。																
備考	なし																
リンク	Moodle (2021前期-木34 義肢装具学実習)を参照すること URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の業務 経験	理学療法士・義肢装具士
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士、医師としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士の臨床現場で多岐に用いられる義肢装具に関する教育を行っている。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0308272		物理療法実習(Practice of Therapeutic Physical Agents)				実習系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	1	3	福祉健康科学部	前期		氏名 阿南雅也, 河上敬介, 高井太規 E-mail 阿南: anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 阿南: 8115						
授業の概要 実際に物理療法がおこなえるよう、各療法についての目的、効果と適応、手技、リスク管理などを整理しながら学修する。物理療法の主な目的は疼痛の緩和、循環の改善等であり、臨床においては運動療法と組み合わせて実施される場合が多い。本授業では物理療法を実施する場面を想定して、物理療法機器の取り扱い、リスク管理などを実習する。この時に物理療法の授業で学んだ知識を復習しながら、その効果も体験できるように行う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	各種物理療法のエビデンスを調査し、説明できる					1	2					
目標2	各種物理療法の作用機序を説明できる					3	4					
目標3	各種物理療法の適応と禁忌、実施上の注意点を説明できる					5	6					
目標4	各種物理療法を実施できる					7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 オリエンテーション												
2 各種物理療法のエビデンスの調査												
3 各種物理療法のエビデンスの調査												
4 各種物理療法のエビデンスの報告												
5 各種物理療法のエビデンスの報告												
6 各種物理療法のエビデンスの報告												
7 熱療法・超音波療法の治療法の実践												
8 熱療法・超音波療法の治療法の実践												
9 電気刺激療法・光線療法の治療法の実践												
10 電気刺激療法・光線療法の治療法の実践												
11 牽引療法・寒冷療法・水治療法の治療法の実践												
12 牽引療法・寒冷療法・水治療法の治療法の実践												
13 機器体験実習												
14 機器体験実習												
15 機器体験実習												
ラ	A:知識の定着・確認	○	グループで物理療法機器のエビデンスの調査、治療法の実践を行う。				工 大 そ の 他 の					
ク	B:意見の表現・交換	○	講義の中でグループディスカッションを進行行う。									
ニ	C:応用志向											
テ	D:知識の活用・創造											
グ												
時間外学修の内容と時間の目安	準備 物理療法の復習を行う(30h)。 事後 発表の準備を行う(30h)。											
教科書	吉田英樹・他:Crosslink 理学療法学テキスト 物理療法学, メジカルビュー, 2019											
参考書	庄本廣治・他:エビデンスから身につける物理療法, 羊土社, 2017											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
成績評価の方法及び評価割合	グループ活動への参加状況	30%	○	○	○	○						
	口頭による実習結果発表	25%	○	○	○	○						
	発表会への参加状況	20%	○	○	○	○						
	レポート	25%	○	○	○	○						
注意事項	グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	なし											
リンク	Moodle (2021前期-火45 物理療法実習) を参照すること URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う基本的治療法の一つである物理療法に関する教育を行っている。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
H030B213	基礎理学療法実習(Physical Therapy Fundamentals)					実習系						
*大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・星	担当教員						
必修	1	3	福祉健康科学部	前期		氏名 河上敬介、阿南雅也 E-mail 河上:kkawakami@oita-u.ac.jp, 阿南:anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 河上:7735,						
授業の概要	臨床における理学療法効果の科学的根拠となる知見を得るための理論体系を構築することを目的とする。これまで学んだ知識を基礎として、基礎理学療法領域の各領域について研究されている内容やトピックスを調査し、最先端の英語論文に触れる。また、最新の研究内容や研究手法、臨床応用について主体的に学修する。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	基礎理学療法領域の中から、国内外の情報を収集できる					○						
目標2	基礎理学療法領域の各領域の最先端の英語論文に触れる					○						
目標3	最新の研究内容や研究手法、臨床応用について論理的に説明できる					○ ○ ○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション											
2	基礎理学療法領域の研究報告内容の整理											
3	基礎理学療法領域の研究報告内容の整理											
4	基礎理学療法領域の紹介											
5	基礎理学療法領域の紹介											
6	基礎理学療法領域の細領域の調査											
7	基礎理学療法領域の細領域の発表											
8	基礎理学療法領域の細領域の発表											
9	基礎理学療法領域の細領域の論文抄読											
10	基礎理学療法領域の細領域の論文抄読											
11	基礎理学療法領域の細領域の論文抄読											
12	基礎理学療法領域の細領域の研究手法の調査											
13	基礎理学療法領域の細領域の研究手法の調査											
14	基礎理学療法領域の細領域の研究手法の調査											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	グループで基礎理学療法領域の調査を行う。			工夫 その他 その他の工夫 英語論文にふれる機会を得ることで、これからの研究活動につなげる。						
	B:意見の表現・交換	○	発表の中でグループディスカッションを適宜行う。									
	C:応用志向	○										
	D:知識の活用・創造											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	論文検索を行う方法などを事前に慣れしておく(30h)。										
	事後学修	発表の準備を行う(30h)。										
教科書	指定しない(必要に応じて提示する)											
参考書	指定しない											
成績評価方法	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
評価方法	グループ活動への参加状況	30%	○	○	○							
	口頭による実習結果発表	25%	○	○	○							
	他のグループの発表に対する質疑への参加状況	10%	○	○	○							
	レポート	25%	○	○	○							
	小テスト	10%	○									
評価割合												
注意事項	グループ単位での実習のため、特別な理由なしに休まないこと。											
備考	なし 【地域創生教育科目】											
リンク	Moodle (2021前期-火12 基礎理学療法実習) を参照すること											
	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	理学療法士としての実務経験をもつ教員が、臨床・研究・教育経験を生かして、理学療法士が行う研究活動や臨床応用を中心に教育を行っている。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	
H030B253		理学療法評価学実習(Practice of Evaluation)				実習系	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員	
選択	1	2年次	福祉健康科学部	後期		氏名 朝井政治・川上健二 E-mail na-asai@oita-u.ac.jp, kenji-kawakami@oita-u.ac.jp 内線 7551, 7118	
授業の概要 理学療法における評価の意味やその位置付け、および具体的技術について学習する。							
具体的な到達目標							
目標1 各検査の目的を述べることができる。						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
目標2 各検査の手順が説明できる。							○
目標3 学生同士による演習方式で検査を実施できる。							○
目標4 各種疾患を想定した模擬症例に対して評価を実施する際のリスク管理を実施できる							○
目標5							
目標6							
目標7							
目標8							
目標9							
目標10							
授業の内容							
1 形態計測総論、体表解剖に関する知識の確認、問診の実践							
2 形態計測の実践1							
3 形態計測の実践2							
4 形態計測の実践3、関節可動域検査総論							
5 関節可動域検査の実践1(上肢)							
6 関節可動域検査の実践2(上肢)							
7 関節可動域検査の実践3(下肢)							
8 関節可動域検査の実践4(体幹ほか)							
9 技術振り返り(形態計測、関節可動域検査)							
10 筋力検査総論、徒手筋力検査の実践1(上肢・肩甲帯)							
11 徒手筋力検査の実践2(上肢)							
12 徒手筋力検査の実践3(下肢)							
13 徒手筋力検査の実践4(体幹ほか)							
14 技術振り返り(徒手筋力検査)							
15 総合演習							
16 神経系に関する知識の確認、車椅子・杖の操作体験							
17 バイタルサイン(脈管系触診、脈拍・血圧測定)							
18 筋緊張検査、反射検査(総論)							
19 反射検査(各論:深部反射)							
20 反射検査(各論:表在反射、病的反射)							
21 技術振り返り(血圧測定・反射検査)							
22 感覚検査(総論)							
23 感覚検査(各論:表在感覚、深部感覚)							
24 感覚検査(疾患別)、痛みの評価							
25 技術振り返り(感覚検査)							
26 脳神経検査(総論、各論:脳神経I~VI)							
27 脳神経検査(各論:脳神経VII~XI)							
28 技術振り返り(脳神経検査)							
29 高次脳機能検査(総論、注意・記憶・遂行機能障害)							
30 高次脳機能検査(失語・失認・失行)							
ラーニング	A:知識の定着・確認		○ 学生同士による演習、模擬患者によるデモンストレーションを実施する。		工夫	単元ごとの振り返り(小テスト・実技試験)を実施する。	
	B:意見の表現・交換		○		その他の		
	C:応用志向						
	D:知識の活用・創造						
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	各評価技術の理解と習熟を目指し、十分な予習をすること。					
	事後学修	各評価技術の理解と習熟を目指し、十分な復習をすること。					
教科書	1) 理学療法評価学 改定第6版 (金原出版) 2) 新・徒手筋力検査法 原著第9版 (協同医学出版社) 3) ベッドサイドの神経の診かた 改定第17版 (南山堂)						
参考書	その都度、紹介する。						

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	技術振り返り	60%	○	○								
	期末テスト	40%	○	○		○						
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心掛けること。 評価器具を必ず持参すること。											
備考	なし											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	理学療法士											
実務経験を いかした 実内容	理学療法法の評価全般に関する実習を行う。各評価法の学修後にその都度、模擬症例による振り返りを実施する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)					
H0308232		運動器系理学療法学実習(Practice of Physical Therapy for musculoskeletal disorders)					実習系					
		*大分を創る科目										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	1	3	福祉健康科学部	後期		氏名 川上健二, 阿南雅也						
						E-mail kenji-kawakami@oita-u.ac.jp (川上), anan-masaya@oita-u.ac.jp (阿南) 内線 7116						
授業の概要 運動器系理学療法は、筋骨格系の障害に対する機能的な機能回復からそれらを制御する神経系の機能も考慮した質的な機能回復へと変化してきている。本授業では、運動器系理学療法で学修したことを応に、臨床に、頻りに経験するであろう運動器疾患の障害に対する評価および治療の知識と技術を統合的・包括的に学習する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
目標1	主要な運動器疾患に対する評価と治療の知識を学習し、その基本的な進め方を説明する。					○						
目標2	主要な運動器疾患に対する評価法と治療法について実習を通し、その効果や身体の変化を分析する。					○						
目標3	グループで作成したレポートを基に、症例を通してゴール設定や治療プログラムの立案を実施する(グループ発表)。					○ ○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 変形性股関節症に対する理学療法												
2 大腿骨頸部骨折に対する理学療法												
3 変形性膝関節症に対する理学療法												
4 前十字靭帯損傷に対する理学療法												
5 腰部疾患に対する理学療法												
6 事例検討① 初回情報提供およびグループ学習												
7 事例検討② グループ学習												
8 事例検討③ 発表												
9 事例検討④ 追加情報提供およびグループ学習												
10 事例検討⑤ グループ学習												
11 事例検討⑥ 発表												
12 事例検討⑦ 最終情報提供およびグループ学習												
13 事例検討⑧ グループ学習												
14 事例検討⑨ 発表												
15 まとめ												
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 ○ 教員が臨床現場で多く遭遇するであろう疾患の概要を説明する。それを基に事例について、ゴール設定および理学療法プログラム立案・実施までの一連の過程をまとめ、実技を交えてグループごとに発表する。また、学生同士で意見交換を行う。					工 夫 其 他 の		教員が講義および発表の際に、これまで経験した症例に実施した治療などを補足説明を行い、より臨床に即した内容とする。				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 運動器系理学療法学の復習およびレポートの修正(30h)。 事後 学修 発表の準備(30h)。											
教科書	古尾雅孝・他：標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学，医学書院，2013											
参考書	上藤慎太郎：運動機能障害の「なぜ？」がわかる評価戦略，医学書院，2017 森山英樹・他：運動器疾患の病態と理学療法，医歯薬出版，2015											
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	学期末試験	50%	○	○	○							
	レポートおよび発表の内容	30%	○	○	○							
	グループ活動への参加状況	20%	○		○							
	すべての項目の合格を単位取得とする。											
注意事項	なし											
備考	【地域創生教育科目】											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	理学療法士として、大学病院や地域の中核病院での実務経験を有する。
実務経験を いかした教 育内容	これまで経験した症例に実施した治療などを解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H030B234		神経系理学療法実習(Practice of physical therapy for neurological disorders)				実習系						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 萬井太規・朝井政治 E-mail mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 -6109						
授業の概要 神経に起因する代表的な疾患の患者モデルをとおして、疾患特性・障害構造特性をより深く理解する。提示された情報のみから情報収集、評価、治療技術に関する課題について学生間で討議して理解を深める。また、学生同士ペアとなり基本的な評価・治療技術について実習を行う。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	パーキンソン病の理学療法評価・治療が実施できる。					1	2					
目標2	運動失調の理学療法評価・治療が実施できる。					3	4					
目標3	疾患・障害に合わせた動作の介助方法が実施できる。					5	6					
目標4	脊髄損傷の理学療法評価・治療が実施できる。					7	8					
目標5	脊髄損傷の治療の一部が実施できる。					9	10					
目標6	脳画像診断に必要な基礎的用語や神経解剖について説明できる。											
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	運動失調の評価(協調性検査)											
2	運動失調の理学療法											
3	運動失調Case study(問題点抽出・ゴール設定)											
4	運動失調Case study(発表・討議)											
5	パーキンソン病の評価(姿勢反射検査、重症度評価)											
6	パーキンソン病の理学療法											
7	パーキンソン病Case study(問題点抽出・ゴール設定)											
8	パーキンソン病Case study(発表・討議)											
9	運動失調、パーキンソン病Case study(治療プログラム立案・発表・討議)											
10	疾患別・障害別介助方法											
11	疾患別・障害別介助方法											
12	脊髄損傷(四肢麻痺:急性期・回復期)の基本動作、車椅子動作、床上動作											
13	脊髄損傷(四肢麻痺:急性期・回復期)の理学療法											
14	脊髄損傷(対麻痺:急性期・回復期)の基本動作、車椅子動作、立位・歩行動作											
15	脊髄損傷(対麻痺:急性期・回復期)の理学療法											
ラ イ ク エ ニ テ ィ グ ラ フ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 学生同士による演習、グループによる共同学習を取り入れる。症例レポートや模擬患者を用いた具体的なケース検討を行うことで、臨床推論能力を高める。さらに、模擬患者に対してロールプレイしながら実践することで、実施技術の獲得、及び問題点を学習する。					工 夫 の 他 の					
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修	神経系理学療法学、理学療法評価学の復習(5h)。										
	事後 学修	実習後、習得した知識・技術が臨床実習で活用できるよう反復練習を継続すること(各実習後1h)										
教科書	細田多穂・他、シンプル理学療法学シリーズ 神経筋障害理学療法学テキスト 改訂第3版、南江堂、2018年 尾上尚志・他、病気がみえる7 脳・神経 第2版、MEDIC MEDIA、2017年 小林哲夫・他、神経麻痺領域のリハビリテーション実践アプローチ 改訂第2版、MEDICAL VIEW、2019年											
参考書	山崎義昭・他、ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版、南山堂、2016年 中山恭秀・鈴木俊明、Crosslink理学療法学テキスト神経障害理学療法学II、MEDICAL VIEW、2019年 吉尾雅幸・森岡周、標準理学療法学 神経系理学療法学、医学書院、2013年											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループ活動の評価	40%	○	○	○			○				
	提出課題(個人レポートなど)	60%	○	○	○	○	○	○				
	全てについて8割以上の評価を得た場合のみ认定を行う。											
注意事項	特になし											
備考	特になし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし
実務経験を いかした教 育内容	実際の症例の病態や経過を提示、解説する。評価・治療の手技をデモンストレーションし、実技指導する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)														
H030B236		脳血管障害理学療法実習(Practice of Physical Therapy for Cerebrovascular Disorder)				実習系														
*大分を創る科目																				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
必修	1	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 菅田陽佑、萬井太規 E-mail hsugata@oita-u.ac.jp, mani-hiroki@oita-u.ac.jp 内線 7871(菅田)、6109(萬井)														
授業の概要 脳血管障害の患者モデルをとおり、疾患特性・障害構造特性をより深く理解する。 また、学生同士のペアとなり基本的な治療について実習を行う。																				
具体的な到達目標																				
DP等の対応(別表参照)																				
目標1	患者モデルにおいて評価項目が選定できる。										○									
目標2	患者モデルにおいて問題点が抽出できる。										○									
目標3	患者モデルにおいてゴール設定ができる。										○									
目標4	患者モデルにおいて治療プログラムが立案できる。										○									
目標5	学生モデルにおいて治療の一部を実施できる。										○									
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1 オリエンテーション、グループ分け、教員による症例提示、症例の疾患名決定																				
2 模擬症例の作成																				
3 模擬症例の作成																				
4 症例1の基本情報提示																				
5 必要な検査・測定項目の抽出、症例1の追加情報提示																				
6 症例1に対する問題点の抽出(ICP)、ゴール設定、治療プログラム立案																				
7 症例2の基本情報提示																				
8 必要な検査・測定項目の抽出、症例2の追加情報提示																				
9 症例2に対する問題点の抽出(ICP)、ゴール設定、治療プログラム立案																				
10 症例3の基本情報提示																				
11 必要な検査・測定項目の抽出、症例3の追加情報提示																				
12 症例3に対する問題点の抽出(ICP)、ゴール設定、治療プログラム立案																				
13 症例4の基本情報提示																				
14 必要な検査・測定項目の抽出、症例4の追加情報提示																				
15 症例4に対する問題点の抽出(ICP)、ゴール設定、治療プログラム立案																				
ラーニングチェック	A:知識の定着・確認	○	学生同士による演習、グループによる協同学習を取り入れる。										工 大 そ の 他 の							
	B:意見の表明・交換	○	症例レポートや模擬患者(Paper patient)を用い具体的なケース検討を行うことで、臨床推論能力を高める。																	
	C:応用志向	○																		
	D:知識の活用・創造	○																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	脳血管障害理学療法の十分な復習をして授業に臨むこと(1h×15回=15h)																		
	事後学習	習得した知識・技術が臨床実習で活用できるよう振り返りを継続すること(1h×15回=15h)																		
教科書	特に指定しない。																			
参考書	1) 理学療法ハンドブック 改訂第4版(協同医学出版社)、細山多穂・柳澤隆編纂、2010年発行 2) 脳卒中最新情報 第4版(医歯薬出版)、福井園彦・藤田勉・宮坂元隆編纂、2009年発行 3) 脳卒中理学療法の理論と技術 第3版(メジカルビュー社)、原寛典・吉尾雅幸編集、2019年発行																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	グループ活動の評価	50%	○	○	○	○	○													
	期末試験	50%	○	○	○	○														
全てについて6割以上の評価を得た場合のみ単位認定を行う。																				
注意事項	なし																			
備考	なし 【地域創生(教育科目)】																			
リンク																				
	URL																			

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	脳血管障害の理学療法について講義・実技指導を行う。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)												
H030B238		内部障害理学療法実習(Practice of Physical Therapy for Internal dysfunction)					実習系												
*大分を創る科目																			
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員													
必修	1	3年	福祉健康科学部 理学療法コース	後期		氏名 朝井政治、田中健一郎 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp, tanaka-kenichiro@oita-u.ac.jp 内線 7551, 6232													
授業の概要 循環器疾患、呼吸器疾患、代謝疾患の代表的な疾患について、基本的な評価、治療手技について解説、実習を行う。 学生を複数のグループに分け、グループごとにガイドラインや文献から最新の知見を収集し、提示された症例に対する根拠に基づいた理学療法プログラムの立案の手順を学ぶ。																			
具体的な到達目標																			
DP等の対応(別表参照)																			
目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 内部障害系理学療法における基本的考え方、評価から治療、効果判定までの流れが説明できる。	目標2 循環器系、呼吸器系、代謝系の代表的な疾患に対する評価、および治療手技の抽出ができる。	目標3 内部障害系理学療法を行う上でのリスクが抽出できる。	目標4 基本的な支援の方法(介助法を含む)を実施できる	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10										
授業の内容																			
1 日常生活活動における介助法1:講義、演習																			
2 日常生活活動における介助法2:講義、演習																			
3 バイタルサイン・理学所見:講義、演習																			
4 呼吸器疾患に対する評価(画像所見、呼吸機能検査):講義、演習																			
5 呼吸器疾患に対する理学療法(コンディショニング):講義、演習																			
6 呼吸器疾患に対する理学療法(運動療法):講義、演習、症例検討(呼吸器疾患)																			
7 循環器疾患の病態1(心電図)																			
8 循環器疾患の病態2																			
9 循環器疾患に対する評価(心電図)																			
10 循環器疾患に対する理学療法(運動負荷試験と運動処方)																			
11 症例検討(循環器疾患)																			
12 技術振り返り、総合演習1																			
13 代謝系疾患に対する評価・理学療法																			
14 症例検討(代謝系疾患)																			
15 総合演習2																			
ラ イ フ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 ☐ 各疾患の特徴をふまえた上で、評価、手技の実習を行う。通常の実習に加え、症例を通じたディベート、学生による講義形式の発表などを取り入れる。 B:意見の表明・交換 ☐ C:応用志向 ☐ D:知識の活用・創造 ☐																		
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 これまでに学修した内容の復習(10時間) 事後 学修 各講義後の復習(知識、実技)(各回ごとに1時間)																		
教科書	解良武士ら 編、Crosslink 理学療法学テキスト 内部障害理学療法学(MEDICAL VIEW)、2019 鏡見廣正ら 編集、標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版(医学書院)、2017 医療情報科学研究所 編、病気が見えるVol2. 循環器疾患(第5版)(Medic Media)、2021																		
参考書	下住秀明ら 監修、呼吸器理学療法標準手技(医学書院)、2008 宮城征四郎ら 編集、疾患を絞り込む・見抜く!身体所見からの臨床診断(羊土社)、2010																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10							
成績評価の方法及び評価割合	筆記試験	70%	○	○	○														
	実技振り返り	20%	○	○	○	○													
	課題レポート	10%	○	○	○														
注意事項	履修時は、実習着を着用し、治療者として相応しい身だしなみを心がけること。 授業はクォーター形式で行っていく可能性がある。																		
備考	なし 【地域創生教育科目】																		
リンク	URL																		

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	理学療法で実施する評価、治療法、介助法について、模擬症例や実際の症例の所見を提示しながら理解を深める。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分:【新主題】/(分野)						
H030B131		基礎臨床実習Ⅰ(見学)(Basic clinical practice Ⅰ)				臨床実習						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	1	1	福祉健康科学部	後期		氏名 河上敬介、朝井政治、阿南雅也、川上健二、菅田陽倫、田中健一朗、高井太規 E-mail kkawakami@oita-u.ac.jp, hsugata@oita-u.ac.jp 内線 7735						
授業の概要 臨床実習担当者の指導の下、理学療法業務を見学し、理学療法士の役割について学ぶ。 さらに、理学療法対象者を取り巻く種々の職種と役割を学び、理学療法部門との協力体制に関して体験学習する。												
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)						
目標1	理学療法対象者とのコミュニケーションの取り方について説明できる。					1	2					
目標2	理学療法士の役割について説明できる。					3	4					
目標3	理学療法対象者を抱き巻く種々の職種とその役割について説明できる。					5	6					
目標4	理学療法部門と他職種との協力体制について、その必要性も含めて説明できる。					7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	実習事前ガイダンス(12月)・実習直前ガイダンス(2月)											
2	1週間の集中実習(1年次春学期休暇中)											
3	実習報告会(実習終了後)											
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												
ラーニング	A:知識の定着・確認 ☐ 演習 B:意見の表現・交換 ☐ C:応用志向 ☐ D:知識の活用・創造 ☐					工夫	その他の					
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習											
	事後学習											
教科書	特に指定しない											
参考書	特に指定しない											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	臨床実習評価	40%	○	○	○	○						
	実習報告書などの提出	20%	○	○	○	○						
	実習前・後指導への参画と理解	40%	○	○	○	○						
注意事項	履修規定に定める条件により履修が可能となる。原則として、全H出席で評価対象とする。また、実習の履修に問題が生じると予想される場合は、コース会議の審議を経て実習遂行が不可能となり、単位を修得できないことがある。											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	理学療法士
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	医療機関、介護施設等で、理学療法士の役割について学ぶ。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)											
H0308254	基礎臨床実習Ⅱ(計測)(Basic clinical practice Ⅱ)					臨床実習											
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員											
必修	1	2	福祉健康科学部	後期		氏名 河上敬介、菅田陽怜、朝井政治、阿南雅也、川上健二、田中健一朗、萬井太規 E-mail kkawakami@oita-u.ac.jp, hsugata@oita-u.ac.jp 内線 7735											
授業の概要	臨床実習担当者の指導の下、これまでに学習した知識・技能を活用し、理学療法対象者の既往歴、現病歴、家族歴などの問診と、簡単な検査・測定を学習する。																
具体的な到達目標																	
						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	カルテより情報収集ができる。						○	○	○	○	○	○					
目標2	理学療法対象者に対して問診ができる。						○	○	○	○	○	○					
目標3	理学療法対象者に対して形態測定、MMTおよびROM testができる。						○	○	○	○	○	○					
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	実習事前ガイダンス																
2	1週間の集中実習																
3	実習報告会																
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
ラーニング	A:知識の定着・確認					○	演習、問題点解決への創造的思考力の開発					工夫 その他					
	B:意見の表現・交換					○											
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学習																
	事後 学習																
教科書	特に指定しない																
参考書	特に指定しない																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	臨床実習評価	40%	○	○	○												
	実習報告書などの提出	20%	○	○	○												
	実習前・後指導への参画と理解	40%	○	○	○												
注意事項	履修規定に定める条件により履修が可能となる。原則として、全日出席で評価対象とする。また、実習の履修に問題が生じると予想される場合は、コース会議の審議を経て実習遂行が不可能となり、単位を修得できないことがある。																
備考	なし 【地域創生教育科目】																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の实務 経験	理学療法士
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士
実務経験を いかした教 育内容	医療機関、介護施設等で、理学療法対象者の既往歴、現病歴、家族歴などの問診と、簡単な検査・測定を学習する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
H030B301	臨床実習Ⅰ(アセスメント)(Clinical Practice I)					臨床実習						
※大分を創る科目												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修	3	3	福祉健康科学部 理学療法コース	後期		氏名 朝井、田中、阿南、河上、川上、菅田、眞井 E-mail ma-asai@olta-u.ac.jp 内線 7551						
授業の概要 臨床実習指導者の指導の下、これまでに学習した知識・技術を活用し、実際の症例を通して必要な検査・測定を実施する。さらに、得られた結果を統合・解釈して問題点を抽出する。これらを通して、理学療法対象者の障害後・全体像を捉える能力を養う。												
具体的な到達目標												
DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	理学療法対象者の情報収集ができる。					○						
目標2	理学療法対象者に対して検査・測定ができる。					○						
目標3	理学療法対象者の問題点について列挙できる。					○						
目標4	理学療法対象者のゴール設定を経験する。					○						
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1) 臨床実習前指導												
2) 臨床実習事前ガイダンス(事前、直前)												
3) 技術振り返り:実技試験(臨床実習前)												
4) 知識振り返り:筆記試験(臨床実習前)												
5) 2) 4週間の集中実習:実習施設の指導者の下で実習を行う												
6) 3) 実習施設訪問指導:担当教員が実習施設に赴き、臨床実習指導者および学生とともに実習の進行状況や問題点を確認する。												
7) 今後の実習での目標、指導内容について調整を図る。												
8) 臨床実習後指導												
9) 提出用資料の作成:事例報告書(レポート、レジュメ等)、デシリノート等												
10) 事例検討会:事例発表、検討会など												
11)												
12)												
13)												
14)												
15)												
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○実習前の実技テストで技術の確認を行う。 ○実習後の事例検討会にて、臨床実習で学んだ事例を通じて知識や技術の向上を図る。				工夫 その他の						
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事前 事後 学修 臨床実習前:これまでに学修した知識、技術を見直しておく(10時間)。 臨床実習後:事例検討会に向けて、資料の準備、知識の整理をしておく(5時間)。 実習中ならびに事例検討会で学修した疾患、病態、理学療法手技について、不十分だった点を振り返る(10時間)。											
教科書	特に指定しない											
参考書	特に指定しない											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
成績評価の方法及び評価割合	臨床実習前筆記試験	20%	○	○	○	○						
	臨床実習前実技試験	20%	○	○	○	○						
	臨床実習評価表による評価	40%	○	○	○	○						
	事例検討会:報告書作成・提出、討議	20%	○	○	○	○						
注意事項	履修規定に定める条件を満たすことにより本課目の履修が可能となる。 実習の履修に問題が生じると予想される場合は、理学療法コース会議の審議を経て実習進行為不可となり、単位を修得できないことがある。											
備考	臨床実習前の準備を1分に行い、臨床実習に臨むこと。 臨床実習期間を通じて、体調管理、リスク管理に留意すること。											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	
H030B302		臨床実習Ⅱ(Clinical Practice Ⅱ)				臨床実習	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員	
必修	6	4年	福祉健康科学部	前期		氏名 阿南・川上・朝井・河上・菅田・田中・萬井 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115	
授業の概要 臨床実習指導者の指導の下、理学療法対象者の評価から、その問題点の抽出、ゴール設定、治療プログラムの立案を通して、臨床思考過程能力を養う。							
具体的な到達目標							
目標1 理学療法対象者のゴール設定ができる。						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
目標2 理学療法対象者の理学療法プログラムが立案できる。							○
目標3 臨床実習指導者の指導の下、理学療法の一部を経験する。							○
目標4							
目標5							
目標6							
目標7							
目標8							
目標9							
目標10							
授業の内容							
1 1) 事前指導(実習前)							
2 臨床実習の目的、意義、心得等、実習に必要となる項目について事前にオリエンテーションを行う。							
3 臨床実習Ⅱに臨む準備が十分であるかを判断するために、学力試験および実技試験・面接を必要に応じて実施する。							
4							
5 2) 臨床実習(7週間)							
6 実習施設の臨床実習指導者のもとで実習を行う。							
7							
8 3) 実習地訪問指導							
9 担当教員が実習地に赴き、学生及び臨床実習指導者から実習の進捗具合や問題点、残りの実習期間の目標や指導内容について調整を図る。							
10							
11 4) 事後指導(実習終了後)							
12 実習に関する成果と反省及び今後の課題等について相互共有し、実習経験の充実・深化を図る。							
13 症例報告書(レポート・レジュメ)の作成、ケース発表、討論会等を行う。							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造				○ ○ ○ ○	実習前の筆記試験・実技テストで知識、技術の確認を行う。 実習後の事例検討会にて、臨床実習で学んだ事例を通じて知識や技術の向上を図る。	工 夫 其 他 の
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習 臨床実習前：これまでに学修した知識、技術を見直しておく(10h)。 事後学習 臨床実習後：事例検討会に向けて、資料の準備、知識の整理をしておく(5時間)。 実習中ならびに事例検討会で学修した疾患、病態、理学療法手技について、不十分だった点を振り返っておく(15h)。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	特に指定しない。						

成績 評価 の 方法 及び 評価 割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	実習前学力試験	30%	○	○	○							
	臨床実習評価	60%	○	○	○							
	症例報告書・発表・討論	10%	○	○	○							
		臨床実習評価とは臨床実習施設で実施した指導内容に対する評価であり、必要に応じて臨床実習指導者と担当教員とで協議を行う。										
注意事項	事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては臨床実習指導者への報告・連絡・相談を徹底すること。 リスク管理を十分に行い、事故・怪我等が発生しないように細心・最善の注意を払うこと。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	これまでに習得した知識・技術を実際の臨床場面の対象者に対して適応し、基本的な理学療法プロセスを実施できるよう、支援・指導する。											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)	
H0308303		臨床実習Ⅲ(Clinical Practice Ⅲ)				臨床実習	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員	
必修	7	4年	福祉健康科学部	前期		氏名 阿南・高井・朝井・河上・川上・菅田・田中 E-mail anan-masaya@oita-u.ac.jp 内線 6115	
授業の概要 臨床実習指導者の指導の下、代表的な疾患に対する理学療法を通して、理学療法の知識と技術を統合する能力を養う。							
具体的な到達目標							
DP等の対応(別表参照)							
目標1	理学療法対象者のゴール設定ができる。						
目標2	理学療法対象者の理学療法プログラムを立案できる。						
目標3	必要に応じて理学療法プログラムを修正できる。						
目標4	治療内容・経過等について報告できる。						
目標5	臨床実習指導者の判断の下、理学療法を実施できる。						
目標6							
目標7							
目標8							
目標9							
目標10							
授業の内容							
1	1) 事前指導(実習前)						
2	臨床実習Ⅲに臨む準備が十分であるか否かを判断するために、学力・実技試験および面接を必要に応じて実施する。						
3							
4	2) 臨床実習(8週間)						
5	実習施設の臨床実習指導者の下で実習を行う。						
6							
7	3) 実習地訪問指導						
8	担当教員が実習地へ赴き、学生および臨床実習指導者から実習の進捗具合や問題点、残りの実習期間の目標や指導内容について調整を図る。						
9							
10	4) 事後指導(実習終了後)						
11	実習に関する成果と反省及び今後の課題等について相互共有し、実習経験の充実・深化を図る。						
12	症例報告書(レポート・レジュメ)作成、ケース発表、討論会等を行う。						
13	学内・学外すべての履修が終了する状況において、臨床に赴くに相応しい学力を兼ね備えているかは重要な要素である。よって実習後学力試験を実施する。						
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
ラ フ ク ニ テ イ グ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 実習後の事例検討会にて、臨床実習で学んだ事例を通じて知識や技術の向上を図る。 ☐ 実習後の筆記試験、実技テストで、知識、技術の確認を行う。	工 夫 其 他 の				
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修 事後 学修	臨床実習前：これまでに学修した知識、技術を見直ししておく(10h)。 臨床実習後：事例検討会に向けて、資料の準備、知識の整理をしておく(5時間)。 実習中ならびに事例検討会で学修した疾患、病態、理学療法手技について、不十分だった点を振り返っておく(50h)。					
教科書	特に指定しない。						
参考書	特に指定しない。						

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	臨床実習評価	60%	○	○	○	○	○					
	症例報告書・発表・討論	10%	○	○	○	○	○					
	実習後学力試験	30%	○	○	○	○	○					
臨床実習評価とは臨床実習施設で実施した指導内容に対する評価であり、必要に応じて臨床実習指導者と担当教員とで協議して行う。												
注意事項	事前の準備を十分に行い、実習実施に関しては臨床実習指導者への報告・連絡・相談を徹底すること。 リスク管理を十分に行い、事故・怪我が発生しないように細心・最善の注意を払うこと。											
備考												
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の実務 経験	理学療法士											
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○											
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	理学療法士											
実務経験を いかした教 育内容	これまでに習得した知識・技術を実際の臨床場面の対象者に対して適応し、基本的な理学療法プロセスを実施できるよう、支援・指導する。											